

たんぽぽだより

神原保育園 子育て支援センター TEL 0836-21-6484
2021年 特別号⑮

子育て支援センターに寄せられるご相談の一部をご紹介します。



Q. 3歳の子のわがママがひどくなって困っています。
思い通りにならないと大騒ぎ！私が電気を消したら
「消したかった！」と言って泣き、私がドアを開けたら、
「自分で開けたかった！」といて怒ります。子どもの
思いを通すのにも限界があります。



A. ご相談、ありがとうございます。

子どものやる気は大事にしたいけど、ここでの「消したい」「開けたい」はお子さんにとって「本当にやりたいこと」ではないのかもしれませんが。大人が困りながらも一生懸命に対応してくれるのを見て、「向き合ってくれている」と感じているのではないのでしょうか。でも、このままの向き合い方では、大人も子どもも疲れてしまいます。一旦リセットしたいですね。

3歳くらいになると、身の回りのことも一人でできるようになり、これまで、できるたびに褒めてくれていた大人が、「できて当たり前」という反応をしがちです。本当はまだまだ誉めてほしい、ちゃんと見ていてほしいけれど、当たり前がいいことをしても褒めてもらえない。そうすると、子どもは大人を困らせるようなことを、したり言ったりするようになります。

「本当にやりたいこと」ではないことを「やりたかった」と言って困らせる時は、「あら、ごめんね。」くらいでやり過ぎないようにしましょう。いつもと違う反応に、長い時間泣いて抵抗する子もいるかもしれませんが、ここは、大人も少し我慢です。『泣きやんだ方が楽しい』ということを経験させるために、泣きやめた時にこそ、「おいで」と優しく声をかけ抱っこするなど、肯定的な関わりをしましょう。このとき、大人の方が切り替えられずに、いやみを言うてしまうようなことはせず、笑顔で受けとめるようにしましょう。

そして、当たり前にしてしまいがちな「自分で服を着られた」「手洗いができた」なども、「着替えるの早いね！」「おててピカピカになったね！」などと声に出して褒めるようにしましょう。しっかりと見てくれている、向き合ってもらえている、という実感があれば、無駄に泣いたり、怒ったりすることは徐々に減ってくると思いますよ。

うまくいかない時は、またご相談くださいね。